



「餅は餅屋」に —研究・教育・業務の緩やかな分業化—

武政 徹
体育科学系講師

「餅は餅屋」ということわざがある。ひらがなでたった6文字の言葉なので、外国からの御客様にも憶えてもらいやすいと思い、よく紹介をする。ちなみに英語では「Everyone for his own trade」と表現するようだ。自分の研究生活のなかで、度々この言葉に励まされ、実験上で困ったことをその道のプロに相談し、力をお借りした。相手は大学の先生、町の職人さん、屠殺場の職員の方など、いろいろな人達であった。同義語に「適材適所」という言葉もあるが、上から見下したような表現でこちらはあまり好きになれない。

私は本学生物学類・生物科学研究科の出身であり、生物科学系（遺伝子実験センター）の助手として3年弱勤めたあと、東京の千駄木にある日本医科大学・解剖学講座の助手を7年間勤めた経歴をもつ。私立の単科大学で少々窮屈な思いをした後、2000年4月に筑波大学・体育

科学系に再び戻ってきたときは「これで総合大学のアカデミックな雰囲気に含まれながら、大きな視野で息の長い研究ができる」と思っていたのだが、筑波大学も「国定大学」ととどまらない覚悟を決めたようだ。独立法人化である。そうと決まれば、21世紀COEプログラムに乗り遅れることのないよう、教官もそれなりの覚悟が必要であるとの学長訓示があった（平成14年6月）。

21世紀COEプログラムの公募要領（平成14年6月、文部科学省発行）にある【事業の背景】の項目を見ると、「我が国の大学が、世界トップレベルの大学と伍して教育及び研究活動を行っていくためには、第三者評価に基づく競争原理により競争的環境を一層醸成し、国公私を通じた大学間の競い合いがより活発に行われることが重要」と書いてある。また公募対象も見ると、目標は世界であるが、競争相手は国内の国公私立大学であ

り、研究所等は含まれていないことがわかる。[事業の目的]を見ると、「21世紀COEプログラムは、我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を学問分野ごとに形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的とするもの」とうたっている。文字通り、日本を代表する研究教育拠点を指定するわけであり、この指定をもらえなければ研究上に大きな打撃を受けるだけでなく、「指定大学になっていない大学なんて」と受験生にもそっぽを向かれるかも知れない。これは一大事である。

ところが、申請書(21世紀COEプログラムに関わる将来構想等調書、拠点形成計画調書及び研究教育活動調書)を見ると、COEプログラムは働き手の業績として、研究と教育とを同等には評価していないようだ。調書において、「研究教育活動に係わるデータ」としてリストアップしなければならない項目を簡単に書くと以下の通りである。まず研究教育活動被評価対象者であるが、それぞれの拠点において、中核を担う事業推進担当者10名以内とされており、教授はもとより、助教授、講師、助手でもよい条件で

ある。11人目からの業績はカウントされない仕組みになっている。

1. 研究成果の発表状況及びその水準

- (1) レフェリー付き学術雑誌等への発表状況と専門書等の執筆状況
- (2) 学術賞、学会賞、財団賞等の受賞状況
- (3) 国際学会での発表(基調講演、招待講演等)状況

2. 競争的資金の獲得状況

- (1) 科学研究費補助金採択状況
- (2) 他の競争的資金採択状況

3. 教員の流動性

- (1) 教員の他大学での経験状況
- (2) 任期制、公募制の導入状況

4. 大学院学生に対する教育の状況

- (1) 大学院学生の在籍及び学位授与状況

研究教育活動の評価基準は明らかに「研究」のアクティビティーに片寄っているように思える。「教育」関係で数にできるのは「どれだけ博士、修士を出したか」ぐらいであろうか?

さらに、研究教育拠点の特色を顕示するのに最も効果的と思われるもの、すなわち評価の対象としてステータスが高いものとして、例えば「研究成果の発表状況及びその水準」としては以下のようなものが挙げられている。

○評価の高い論文誌への発表

○論文の被引用数

○特許申請，取得，実施状況

これに対して教育関係では，以下のよ
うなものが評価に値するようだ。

○英語による講義実施状況

○学生による講義評価システムの有無

しかしこれらの項目で，果たして研究
活動と教育活動を同等に評価していただ
けるのであろうか？「よく評価してほし
いのなら研究業績を上げなさい」と言っ
ているように思えてならないのだが，い
かがであらうか？

随分前の話だが，国立一期校の大学か
ら本学に移動された某先生が，「筑波は
何でこんなに会議が多いんだ！」と嘆い
ていらしたことを思い出す。筑波大育ち
の私には「これが普通」と思っていたも
のが，そうでないことに気がつきはじめ
たのは，自ら私大に勤めはじめた時のこ
とである（私学，というのではなく講座
制のある小さな大学だったからかもしれ
ない）。そこでは多くの会議に出席する
のは教授だけで，助教授以下は就業時間
のかなりの時間を自分の研究のために費
やすことができ，それに応じて研究業績
を上げることができていたように思う。
みんながたくさんの会議などに顔を出さ
なくてはならないというのは時間的に見

ると効率が悪い。ネットの時代である。
電子メールで意見を交換しそれを集約す
るような，会議の参加形態があってもよ
いのではないだろうか？「とにかく時間
を効率よく活用したい」というのが筑波
大学のすべての教官が考えていることで
はないだろうか？

大学の仕事は「研究・教育・業務」か
らなっている。「業務」というのは例え
ば学系のパンフレットを作ったり，解剖
実習のために御遺族から御遺体をお預か
りしたりする作業である（突飛な例です
みません，身近なものでしたので）。ど
ちらも研究や教育に関係はするものの，
必ずしも直接的とは言えない。しかし明
らかに大学としては必要な仕事である
し，これを除いてしまっただけでは成り立た
ない仕事が「業務」である。

さて，「餅は餅屋」の話。私が申し上
げたいのはこの「研究・教育・業務」の
三つの仕事を可能な限り分業化できない
かということである。誰もが全てを完璧
にこなす時間がないことは明らかである。
少なくとも私の競争相手の多くは，
研究に専従できる環境を獲得しているよ
うである。実験系（特に生物系はそうな
のかも知れないが）の研究では，どれだ
けたくさんの時間を使って，実験に従事
できるかが大切なのである。私はできる

だけ実験室にいる時間を確保したいと考える者である。しかし学系を見渡すと、全ての人が自分と同じように考えているわけでないことに気がつく。できるだけ学生と接して話す時間を大切にする人、管理的な仕事をきちんとこなすことのできる人。どれも必要な仕事であるのだから、大学側にはそれら三つの仕事を相当に評価していただきたいと思う。以上のことを考えあわせてみて、「研究という仕事を得意としている人（特にCOE研究教育活動評価対象者の10名）にはできるだけ多くの時間を研究に費やすことを許される環境を与えられるのであれば、業績を上げることによって大学（あるいは研究科の各専攻）により一層貢献することができるのではないか」と感じているのだが、いかがであろうか？ COEプログラム研究者調書には、自分が自由にできる時間（スタミナ）のうち何%を拠点形成に割り当てることができるのかを書く欄さえある。ここが40~50%では評価されにくいというのは明らかであろう。

末筆ながら、何故私のような若輩者に筑波フォーラム執筆のお鉢が回ってきたのか考えてみた。おそらく、フォーラム担当の方は事業推進担当者の底辺に位置する者（講師・助手レベル）の中で、最

近業績として特許査定がおりた者というのを探したのではあるまいか？

特許査定は体育科学系ではまだ目新しいもののようである。特許は申請しただけでも業績になるようだが、私の場合、何とか苦勞して弁理士を頼まずに自分で明細書を書き（お金がなくて餅屋＝弁理士を使えなかった！）、平成13年に特許査定をいただいた。あとは「実施状況」の欄を何らかの形で埋めるだけである。どなたか私の発明「シリコンベルトを使った培養細胞用伸縮刺激負荷装置（開発コードネーム：伸びた君）」を使っただけないだろうか、と思う毎日である。

Note added in Proof: 執筆から校正に至る過程でCOEプログラム拠点が発表になりました。時間的にずれた表現があることを御了承下さい。

(たけまさとおる 筋肉の運動生理学専攻)